

青森県水産増殖センター

センターだより

水産増殖センター全景



後方の水田が、本年度造成され平成3年度に実験棟等を建設、平成4年度には現在の建物の場所に管理棟等が建設される。

就任のごあいさつ



次長 金澤 宏 重

このたび、川村前次長が青森県水産修練所長として転出され、その後を引継ぐことになりました。

今までは、十和田市にあります青森県魚病指導総合センター（青森県内水面水産試験場兼務）で魚の病気のことで、サケ・マスを増養殖に關したことで淡水での仕事をしていたが、しばらくぶりの方で仕事をすることになり、なつかしさがある反面緊張しています。

県職員として採用されてから昭和四十三年三月まで、水産増殖センターの前身であります陸奥湾水産増殖研究所に勤務していましたが、同年四月に東通村臼糠駐在の沿岸漁業改良普及員として転出し、三年後の四月から青森県水産試験場相坂養魚場で内水面の仕事をすることになってから十九年ぶりの海の方での勤務となります。

着任し、当センターの仕事の内容をみて、海の方の変わりようにはおどろいています。

ホタテガイ漁業が一大産業になり、

私が海の方にいたころには考えられなかった、密殖の問題、貝毒の問題等もその一つです。

また、最近、全国的に「つくり育てる漁業」が盛んになっていますが、当センターでもホタテガイの試験研究の外に、ナマコ、ホッキガイ、サザエ、クロソイ、マダラ、ウニ、アワビ、エゴノリ等多岐にわたっているのを見て、沿岸の皆様が「つくり育てる漁業」に対し高い関心をもたれていることを感じました。

このように多岐にわたる試験研究が必要とされているため、老朽化、狭隘化している当所が新築されることになり、いよいよ今年度から土地造成、設計に入りますが、しばらくぶりに海の方に来てこのような大きな仕事にかかわることになり、光栄に思っている次第です。

微力ではありますが、職務を全うするため努力する所存ですので、ご指導、ご鞭撻を賜わりますようお願い申し上げます。

平成二年度

事業計画と分担

漁場部



部長 対馬 誠

このたびの人事異動で水産課に転出された武田前部長に代り着任いたしました。また、中谷研究管理員が水産物加工研究所に転出し、水産修練所から松原技師が転入しましたのでよろしくお願い致します。

漁場部の本年度の主な事業と担当は次のとおりです。

「海況・環境部門」

ホタテガイ等が生育している漁場の海況・環境の基礎的な観測調査を陸奥湾を主体に行い、漁場管理に係る適確な情報を提供するものです。

- 陸奥湾海況自動観測
- 陸奥湾海況補完調査
- 陸奥湾海況調査

○浅海定線調査

湾内定点海況調査

○陸奥湾海況予報技術研究

(対馬部長ほか)

陸奥湾内において海況自動観測装置(フィシステム)により得られる水温、塩分等の海況データと調査船などより(浜田勝雄船長)の海洋観測情報等の整理・解析を行い、関係者が利用しやすい情報として提供して参りたい。

また、陸奥湾の海況に係る情報を収集整理し、情報の精度向上を図るための予報技術の研究を行います。

「貝毒部門」

本県ホタテガイの安定出荷を図るため、次の研究を引続き実施していきます。

- 赤潮貝毒監視事業
- ホタテガイの毒力環境調査、毒化予測
- 貝毒安全対策事業
- ホタテガイの毒化原因、毒化予知手法の確立 (中村技師ほか)

○生鮮貝類有効利用技術開発研究

毒化ホタテガイの無毒化するシステムの開発研究(松原技師ほか)

本県産ホタテガイの毒化現象について、モニタリングを行い基礎情報を提供します。

また、毒化、解毒に関する機構、ホタテガイの生理機能等の基礎的な試験を行い、ホタテガイ流通の安定と生鮮消費の拡大に資することとしております。

ほたて貝部



部長 田中 俊輔

定期人事異動で部のメンバーが変りました。青森県水産試験場へ転出された青山前部長に代り、このたび着任(前任地青森県栽培漁業公社)しました。よろしく申し上げます。

また、小倉研究管理員は青森県栽培漁業公社(栽培部長)へ、兜森技師は大畑地方水産業改良普及所へそれぞれ転出し、相坂技師(新採用)が転入してきました。

所内の配置換えで、山内技師が貝類部へ転出し、須川研究管理員、蛭名技師が貝類部から転入しました。

一方、仕事の分担が若干変りました。ほたて貝部は昭和五十一年の設部以来、ホタテガイだけを調査研究の対象にしてきましたが、本年度から新たにむつ湾の海底に生棲し、産業的にも重要な「ナマコ」、「トゲクリガニ」の二種を担当することになりました。

- 本年度の主な事業と分担は次のとおりです。
- ホタテガイ養殖漁場の合理的管理技術に関する研究、
- 海外ホタテガイ産業定着促進研究、養殖実態調査(春季)

- 天然採苗予報調査、ホタテガイの生理的活力の判定に関する研究、ホタテガイ生育環境調査

(佐藤技師ほか)

- 地まき増殖実態調査(むつ湾)、養殖実態調査(秋季)、ナマコ放流技術開発試験、トゲクリガニ増殖試験

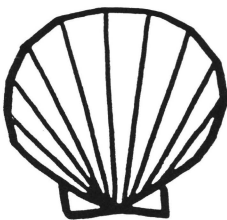
(蛭名技師ほか)

- 養殖実証(モニター)試験、養殖実証試験漁場の維持管理

(相坂技師ほか)

五月二十二日から垂下養殖実態調査(春季)が始まります。昨年秋季の同調査では、六十三年産貝の『へい死亡率+異常貝出現率』が過去最高の五十五・五%を記録しました。また、同貝は元年十月までに稚貝採取時の約四十一%がへい死したと推定されるなど厳しい状況にあると言えます。

これらの状況をふまえつつ、今年度は前記の試験研究を推進する予定です。



貝類部



部長 横山 勝幸

所内の業務及び人員の配置換えにより、貝類部は四名で頑張ることになりました。よろしくお願いします。本年度の主な事業計画と分担は次のとおりです。

一、地域特産種増殖技術開発事業（ホッキガイ）

ホッキガイの栽培漁業化を促進するため人工種苗を使った中間育成試験、種苗放流試験、追跡調査等を行います。五ヶ年計画の三年目に入りました。

二、重要貝類増殖試験

昨年度に引き続き、サザエの増殖試験を中心に進めます。

三、アカガイ保護水面管理事業調査

むつ市芦崎湾のアカガイ保護水面について、環境調査等を行います。

（川村要技能技師ほか）

魚類部



部長 早川 豊

人事異動で部のメンバーが大幅に変わりました。水産事務所へ転出された小川前部長に代り、水産試験場から着任しました。よろしくお願いします。また、植村主任研究員が漁業振興課へ転出、中西技師は階上の県栽培漁業振興協会駐在、福田技能技師は退職され同協会へ移られました。

さて、沿岸重要魚種の減少が著しい今日、全国的規模で資源培養管理型漁業——種苗放流・漁業管理による資源の維持増大策——が積極的に進められています。魚類部ではその一翼を担うべく、魚類・甲殻類の栽培漁業化、あるいは増殖を図るための試験研究を行っています。

一方、当所で永年量産技術開発を行ってきたヒラメの種苗生産は、今年度から施設の完成した栽培漁業振興協会でいよいよ事業化に移行します。

それでは、今年度の主な事業項目

と内容について紹介します。

一、クロソイ放流技術開発事業

昭和六十三年度から始まった種苗生産試験ですが、これまでの成果を基に、今年度から国の事業を導入し、量産技術の確立に主眼をおき、本県に合った種苗生産・中間育成の手引き書を作ります。

（中田主任研究員ほか）

二、マダラ量産技術開発事業

昭和五十四年度以来、陸奥湾に來遊するマダラ親魚と稚仔魚の生態および種苗生産を中心に各種試験を行ってきましたが、今年度からはその成果を基に国の事業を導入し再スタートをします。その主眼は量産技術開発ですが、中間育成技術開発、放流効果の検討、資源生態調査等も行い資源管理を含めた増殖方法を検討します。

（塩垣総括主任研究員ほか）

三、低温性餌料開発試験

冬期発生重要魚種（マダラ・マコガレイ等）の種苗生産に必要な初期餌料生物の探索と培養方法の開発を行います。

（塩垣総括主任研究員ほか）

四、ヒラツメガニ増殖試験

太平洋沿岸で漁獲減が著しい本種

の資源保護・増大を図るため、漁業

実態・漁獲実態調査、種苗生産基礎試験、飼育試験等を行い資源管理方策を検討します。

（中田主任研究員ほか）

海草部



部長 小田切 謙二

昨年の青森県のコンブ漁は、津軽海峡地区が大豊漁ということもあり、史上最大になるなど明るい話題がありました。また、コンブの豊漁は、これを餌としているウニの身入りに

も好影響を及ぼしたものと思われま

す。

一方、日本海地区では、サザエを

主対象とした藻場造成に関する事業

の展開が、強く要望されています。

コンブの生えない地区での藻場造りでは、ホンダワラやソルアラメなどの海藻が主になりますので、この面での技術開発を一層進めなければなりません。

さらに、需要の高いウニの増産にも期待が持たれています。

これらの要望に答えるべく、今年

度は次の事業を、昨年と同じスタッフで進めてまいります。

一、ウニ栽培漁業化試験

ウニによるコンブの食害を防ぐと共に、ウニ資源を有効に利用するための移植技術手引き書を作る。

（木村総括主任研究員）

（今井 技 師）

二、優良海藻作出研究

県内に分布するコンブ類を対象に、生長の早い、品質の良い、温度耐性に優れた品種を選抜育種、交配等によって作り出し、これらを大量に培養するバイオテクノロジーについて検討します。

（桐原技師ほか）

三、エゴノリ養殖実証試験

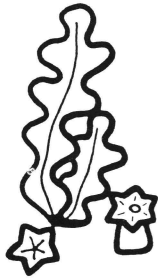
天然の母藻より人工採苗し、沖出し種苗の養成試験を行ない、養殖に適した資材および技術について検討します。

（桐原技師ほか）

四、放流漁場高度利用技術開発事業

前期調査において、アワビの害敵生物・食害状況を明らかにし、効果的放流時期・サイズを検討しました。

後期五ヶ年の調査では、アワビ天



然資源の維持と人工種苗の放流効果を向上させる技術について検討します。

五、電源立地地域温排水対策事業調査

(東通地点、大間地点)
有用海藻類の養成試験を行ない、当該地域の養殖適性を検討する。

(桐原技師ほか)

(大町地点)
沖の空ウニ資源の有効利用策として、移殖放流技術の開発及び実用化について検討します。

(木村総括主任研究員ほか)

六、増殖場開発事業関連調査
増殖場造成適地の選定、造成場の構造及び造成後の管理手法について検討します。

(小田切部長ほか)

平成2年度水産増殖センター職員配置

所 (関野 哲雄)	長 (金澤 宏重)	総務室長 (本間 剛)	須藤 潔主幹・荒田 茂主査・工藤昭彦主事 和田幸市技能技師・盛 善道技能技師 鹿内満春技能技師・木村幸子技能主事
		漁場部長 (対馬 誠)	三津谷正主任研究員・松原 久技師 山中崇裕技師・中村靖人技師 (なつどまり) 濱田勝雄船長 相野幹夫機関長・後藤昭蔵一等航海士 本間直吉甲板長・長津 司機関員
		ほたて貝部長 (田中 俊輔)	須川人志研究管理員・佐藤恭成技師 蛭名政仁技師・相坂幸二技師
		貝類部長 (横山 勝幸)	山内高博技師・川村俊一技師 川村 要技能技師
		魚類部長 (早川 豊)	塩垣 優総括主任研究員・中田凱久主任研究員 五十嵐照明技能技師
		海草部長 (小田切 譲二)	木村 大総括主任研究員・桐原慎二技師 今井美代子技師
		階上町駐在	中西廣義技師・吉田由孝技師
公社派遣		小倉大二郎研究管理員・中田健一技師	



本年度土地造成する建設予定地